

私、
これから穢

されます

。

稀神サグメ

調教中

TOHO Project FAN BOOK Presented by All is Fantasy



最初はただの気晴らしだった。

ストレス解消の為のちよつとした気晴らし。
それがいつしかエスカレートして、
いつしか普通の刺激じゃ物足りなくなっただけ……。

——いい方法がある——

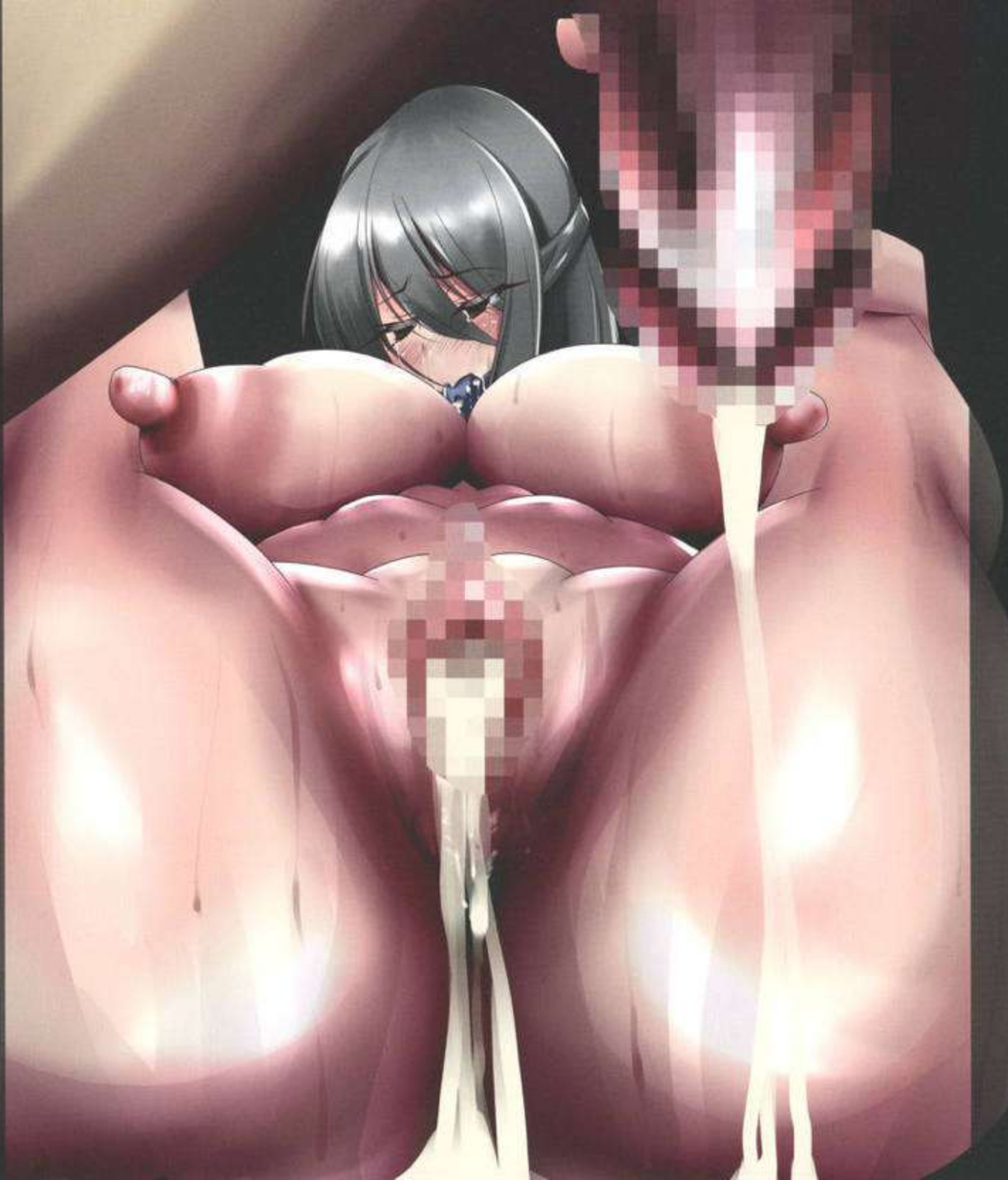
そんな私を知っている友人からの入れ知恵。

穢れに満ちた地上のとある『部屋』
私は今そこにいる。



「膣内で射精すぞオラッ!!」

——こうなる事は最初から分かっていた…………。



『部屋』で待っていた男は、私に来る事を知っていたようだ。
彼女……友人が予め連絡を入れていたのかもしれない。
お互いに確認の挨拶を交わしてから最初の性行為…………。
ほとんどレイプに近いそれが契約完了の証明だった。

数時間後、男は『次』の予定を私に伝えると紙袋を渡してきた。

——『次』はこれを着て来いという事か。

「もしもしー？ 今って『部屋』空いてる？」
「……あ、空いてる？ これから使いたいんだけど大丈夫？」
男はそう言って電話をかけ部屋の空きを確認する。
「ああ……ああ……んじやあいつも通りで、おねがいつしやーす」
男は通話を終わると、自分は先に『部屋』で待っていると言い扉の向こうに消えていく……。
独りになった私は少しだけ躊躇いながらもその後を追った。
……今ならまだ引き返せたはずなのに……。



ガチャ――。

廊下を歩き扉を開けると中には見知らぬ男たちがいた。

「オイオイオイ、マジかよ……へへっ」
「これまた凄えヤベエ娘を連れてきたな……ヒヒッ」
そんな声を浴びせかけながら、男に指示された部屋を目指して歩いていく。
「ねえキミ、一応聞くけどここどうい場所かわかってるんだよね？」
歩みを少し緩めて男の質問に頷く。
「だよねー、そんな恰好してオツパイやマンコ見せつけてたら言い訳できないよねー」
さらに別の男たちが近寄ってきた。
「そう言う事だ。んじやあ、アイツんとこ行く前にちよつと俺達と挨拶しようぜえ！」

後ろで扉の閉まる音がする。

ニヤついた声が部屋に響く。

男達の手が、私の身体を弄り始めた――。

「うおっほお：すっげえ：：：オイ、ちよつと見ろよ！すげえぞ!!」
私の顔にペニスと精液を擦り付けながら男が別の男に呼びかける。



「ああ：：？ なんだよ：：：」
「どうよ、メッチャ出た!」
「：：：ぶっ飛ばすぞ」
「あつ、写メ撮って写メ、はいこれ」
「お前マジでぶっ飛ばす：：：」
「まあまあ、次ハメさせてやつから」
男が私の唇をペニスで無理矢理こじ開けながら頼み込んだ。
「：：：チツ：：」
押し付けられるようにスマホを渡された男が舌打ちしながら要求に応じる。
「アリガト、優しー!」
「：：：ホラ、撮るぞ」
「だってよ、ほら、サグメ、顔上げて〜3：：2：：やべっ!!また射精る!!」

男の射精と同時にカメラの撮影音がした。

「も、もう……おま……ん……犯さ……ない……で……いぎっ!!」
「声が小せえぞオラ!!」
男が乱暴にクリトリスをつねり上げながら怒声を上げる。
私に使った薬物は、その効果を遺憾なく発揮しているようだ。
意識が抗えない快楽へと染め上げられていく……
「もう一本行つとくか……」
「や……やめて……っ」
充血しパンパンに勃起したクリトリスへ容赦なく追加の薬物が投与されていく。

ツツツ!!



何度も耐えた——だがもう無理だ——。

その悲鳴と嬌声を塞ぐようにオスの臭いが迫ってくる。
「オラ、どうして欲しいか言ってみろや、月人さんよお」
乱暴な言葉に合わせて、男の指が膣内を掻き混ぜていく。

「も、もうイギだぐないっ!!おまんこじないてくださいいっつ!!!
おまんこに、子宮にザーメン出さないてくださいいっつ、
お願いします♥お願いします♥♥
おちんぽをおまんこに♥おまんこにおちんぽを♥
もうじゅぼじゅぼしないでくださいい♥♥♥じゃないとまた……
あ、ああああ♥イク……イグイグイグっ♥
まだ、おまんこイグううううううううううううううううううう——
♥♥♥!!!」

あとはもう堕ちていくだけだった。

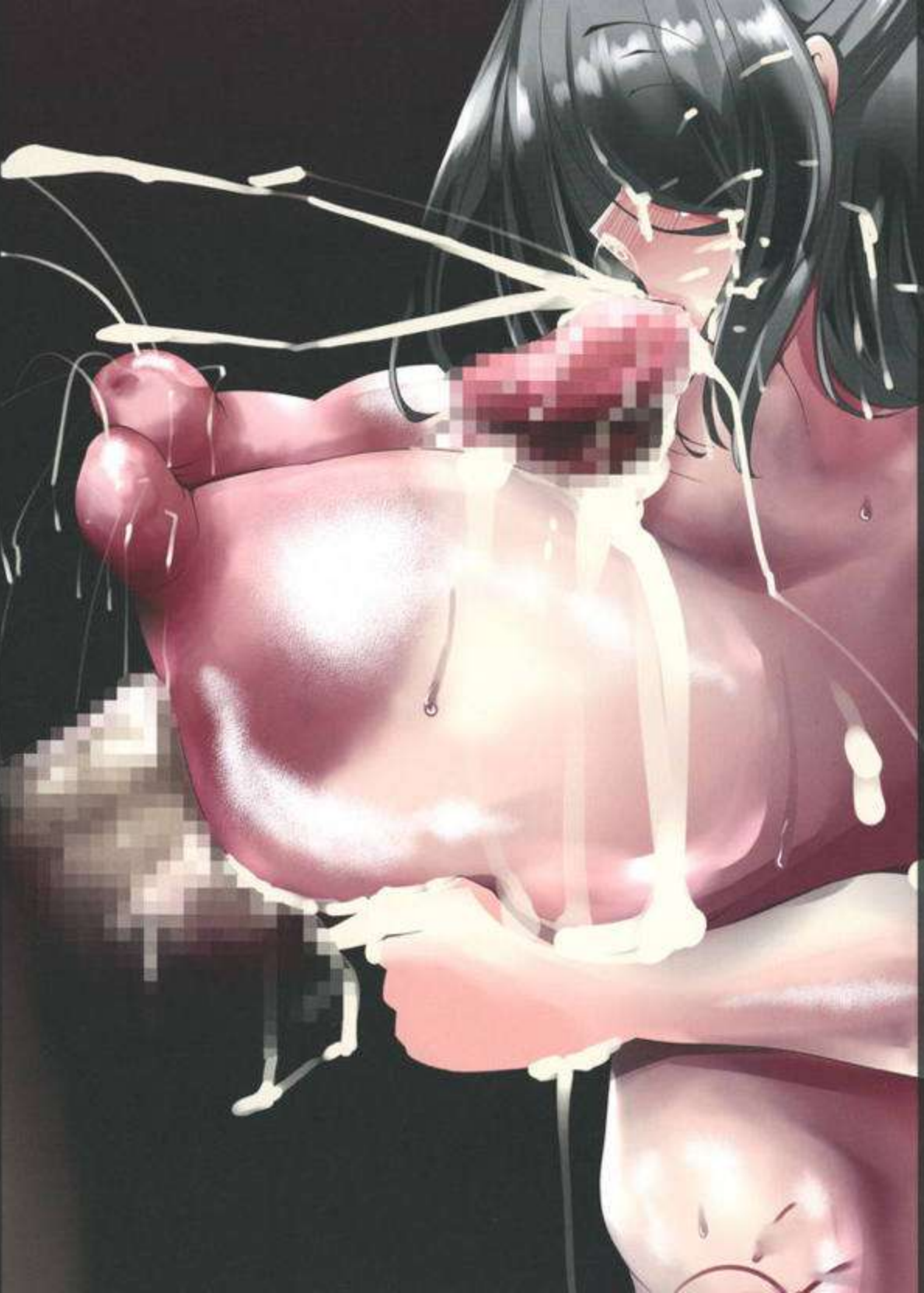
月人としての誇りも穢れなき身体も今はもう無い……。ただ男たちの精液を浴びて、注がれ、溢れ出すだけの雌になり果てていった。

「じゅぷっじゅるっずずずずずずずずずずず♥
ぶじゅぢゅううっうぐぼぐぼぐぼぐぼぐぼっ♥♥♥
んおおお♥おぶううじゅるるるるるるるるるるッ♥♥♥♥♥!!」

「随分上手くなったなあ、サグメよお」

「毎日犯されまくってケツもマンコもガバガバだけどな」

「まったく、月人ってのは超乳揃いで最高だぜえ!!」



「そろそろもう一発…イクぞお…零すんじやねえぞお…オラア!!」

「こっちもだ!ちやんと受精させてやるからなア!!」

「もうやらあ、ちんぽやらあ♥
お願いします♥もうこれ以上ザーメン飲ませないでくらし♥♥♥
サグメのおまんこもアナルも犯しやないれくらはいい♥♥♥♥♥
やらあ♥おくしゅりも、ザーメンもやらあ♥♥♥♥♥
んおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおつ♥♥♥
またイクイクイクイクイクイクイクイクイクイク♥♥♥
ツ…イク♥♥♥!!!」

休暇を利用した気晴らしも今日が最終日。
思えば口にしたのは男達の精液と尿ばかりだ。
最低最悪の日々だった……。
この『部屋』を勧めてきた友人にはそう言ってやる。



「そっかし、サグメちゃん今日で帰っちゃうのかあ」

「今度は友達も一緒に連れてきてねー」

「こんな格好じゃ帰れねえだろ、最後に綺麗にしてやるよ」

散々私を嬲り続けた下衆たちのペニスが私に向けられた。

集まった男達に次々と精液で穢される私の身体。

嗅ぎ慣れない精液のシャワーを浴び、咽返る激臭の中一言吐き捨てる……。

「…………お断り致します。…………二度と来ません、私も友達も」

そう——絶対に、二度と来るものか——。

奥付

タイトル：私、これから穢されます……。 稀神サグメ

発行日：2018/10/14

サークル：All is Fantasy

発行者：如月 二日

連絡先：internecine8492@yahoo.co.jp

twitter：@internecine8492

印刷所：ねこのしっぽ 様

※18歳未満の購読、閲覧を禁止します。

※無断転載、複写、複製、

インターネット等へのアップロードを禁止します。

